

図書館職員交流報告

濱 田 祐 次 （信州大学教育学部図書館）

▶はじめに

2012年10月21日～11月1日、協定校である韓国の慶尚（キョンサン）大学校図書館を訪問した。以下、図書館の概要と交流研修の内容について報告する。

▶慶尚大学校図書館について

慶尚大学校は1948年農科大学としてスタートし、1980年総合大学に昇格した国立大学である。図書館は、釜山から1時間半ほどの晋州（ジンジュ）市加佐（カジャ）にあるメインキャンパス内に、中央図書館、法学図書館、学術情報館、古文書図書館である「文泉閣（ムンチョンガク）」の4館がある。さらに、同市内の七洞（チラン）に医学図書館、晋州市から1時間ほど離れた統営（トンヨン）市に海洋科学図書館がある。今回は主に中央図書館で見聞きしたサービスについて、印象に残ったものを報告する。

▶リーディング・テスト（読書卒業認証制度）

課題の図書（10冊）を読んで、Web上の試験を受けることによって単位を取得できる制度。試験は、図書館内設置の「リーディングテスト・ルーム」で各自受けることができるようになっている。



リーディングテスト・ルームでの試験の様子

出題は、「読んだ本についてどれくらい理解しているか」について、出題レベルが難しすぎないように配慮した設問を、学部教員（主に人文学部の教員）に依頼して作成している。以下、設問の概要を述べる。

【概要】 課題の図書を読んで、出題に回答する（総出題数：50問）

- ・ 4 択 30 問
- ・ 簡単な記述問題 10 問
- ・ その他 10 問

【出題の例（小説の場合）】

- ・ 書名、著者名を答えなさい
- ・ 著者の受賞した賞について答えなさい
- ・ 本の主題について答えなさい
- ・ 著者の背景となっている、出身国の歴史の問題
- ・ 登場人物について（主人公の名前・登場人物の関係） など

テスト導入当時、大学では「学生の読書量の低下」を改善することが課題となっており、特に文学・小説などの「教養としての読書」に対する学生のモチベーションを促すため、教員と連携してこの制度をもうけた。2年前の2010年より慶尚大学校図書館が先導して企画をおこし、今年で3年目の実施となる。慶尚大学の後続として、現在4つの大学が同制度を導入しており、4択等の簡単な設問は大学間で共有しているという話を聞いた。

▶ ガイダンス

主なサービスについての利用案内は、オンラインでの図書館案内をホームページに掲載しており、パソコンからいつでもアクセスして利用ができるようになっている (<http://libinfo.gnu.ac.kr/main.html>)。講義形式のものは主に教職員・留学生向けに、各研究室、講義室等に出向いて行う「デリバリー型」のガイダンスを行っている。以下内容を紹介する。

① 留学生のためのガイダンス

「English Only Zone」で留学生向けのガイダンスを行っている。こちらは英語教育のための施設となっており、施設内では英語以外の会話が禁止されているため、ガイダンスも全て英語で行っている。

② 新任教員のためのガイダンス

毎年10～15名、1時間ほどのガイダンス。リクエストに応じて、各データベースの基礎的な操作方法についてのチュートリアルガイダンスも行



English Only Zone

っている。

③データベース・ガイダンス

各データベースの詳細な操作方法については、提供元の会社に講義を依頼している。

ガイダンスにはプログラムの構成、話すときのしぐさ・態度、アイコンタクトの方法などの「プレゼンテーション能力」が必要であり、慶尚大学校図書館では研修等に参加することで、プレゼンテーション能力の向上をはかっているとのことだった。以下、ガイダンスのプログラムを作成する際のポイントについて、聞いたことを紹介する。

- ・細かい部分ではなく、できるだけ一般的・包括的な説明をこころがけている。
- ・「だれがターゲットなのか？」を常に考えてプログラムを構成し、一番重要なポイントに絞って説明をする。たとえば教員は「最新の文献情報の入手方法」「文献情報の管理方法」などを必要としているので、そこに焦点を絞ったプログラムを構成している。
- ・図書館の価値を知ってもらうことが重要。たとえば「購入している資料（電子ジャーナル・データベースなど）にどのくらいの価値があるのか」がよくわかるよう、別のものと比較すると効果的である。
例) 電子ジャーナルの価格＝ティファニーのダイヤモンド など

▶学位・修士・博士論文データベース「d-Collection」

学位、修士、博士論文を一括で管理しているデータベース。慶尚大学では各論文を図書館へ提出することが義務づけられており、提出された論文はd-Collectionへ登録され、最終的にPDFで全文の検索、閲覧ができるようになっている。d-Collectionは図書館が管理し、論文の校正、著作権許諾、登録までを全て行っている。韓国では一般的に学位・修士・博士論文の公開を前提としており、各大学図書館でも同様の登録を行っている聞いた。日本では学位・修士論文の検索や利用が容易ではないため、このようなシステムはとても便利であると感じた。



d-Collection トップページ

▶ Rush Cataloging Request

欧米でもよく利用されているサービス。研究のためにすぐに使いたい資料について、優先的に目録・所蔵登録を行うよう、Web上からリクエストができるサービス。依頼が入った資料はその日のうちに目録登録をし、翌日には貸出可能な状態にして利用者に渡す。特に研究室購入図書について依頼が多く、一日平均10件、多い時には20件のリクエストがあるとのことだった。

▶ 慶南科学技術大学校図書館への訪問

研修の最終日に、晋州市七岩にある国立大学、慶南（キョンナム）科学技術大学校図書館を訪問した。2012年3月に改装を行い、現在全4階のうち2階部分を、グループ学習やディスカッションができるラーニングcommons・フロアとして利用していた。また、限られた閲覧席を有効に使うために、タッチパネル式の予約サービスを行っているのが印象的であった。



ラーニングcommons・フロア



閲覧席予約システム

▶ まとめ

今回の訪問を通じて、韓国の大学図書館では電子上のサービスが非常に充実しており、様々な面で効率的なサービスを提供できるように整備されていることが分かった。また、慶尚大学校図書館の方々が「専門職としての図書館員」として誇りを持ち、スキル向上のために日々研鑽しながら仕事をされていることに感銘を受けた。私の拙い語学レベルにあわせて親切に対応していただき、大変感謝している。これからの図書館業務のなかで活かしてゆきたい。